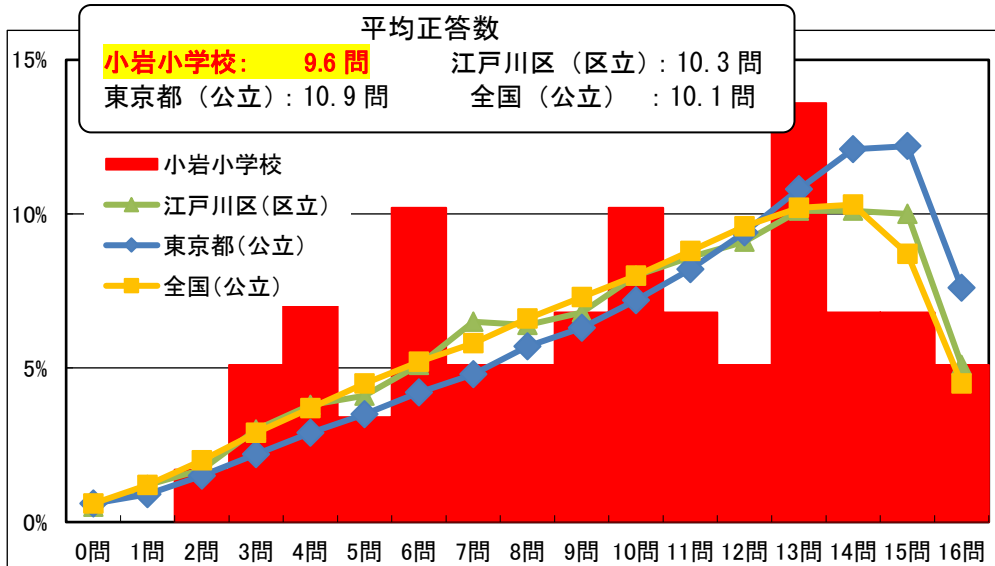


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 小岩小学校

正答数分布

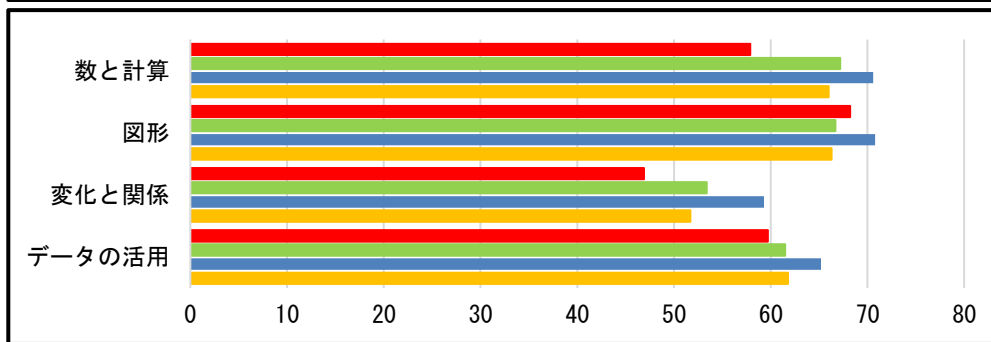
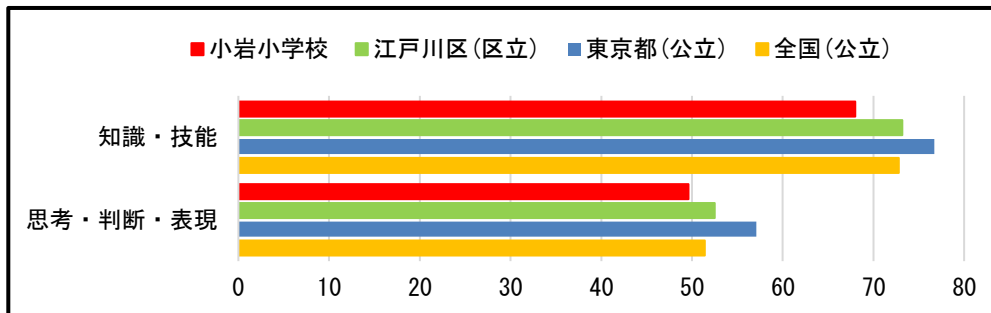


<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ←		→ 下位	
	A層 14~16問	B層 12~13問	C層 8~11問	D層 0~7問
小岩小学校	18.7	18.7	28.9	34.0
江戸川区(区立)	25.2	19.2	29.8	25.8
東京都(公立)	31.9	20.2	27.4	20.5
全国(公立)	23.5	19.8	30.7	26.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

<分析>平均正答率60%は、都より8%、区より4%それぞれ低い。AB層約37%は都、全国、区いずれよりも低い。一方、D層が34%と突出して高い。領域別の正答率では、平均と比較して、「図形」が高く、「数と計算」「変化と関係」が低い。

<授業改善>全体的に平均正答率が低い結果となった。基礎基本をより一層重視して繰り返して指導することに加え、児童同士で説明し合い理解を深める学習や、問題解決的な学習に基づく指導を継続する。「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」問題や「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる」問題の正答率が低く、問題文を数直線やテープ図に表す学習や、位を正しくとらえて計算する学習を積み重ね、習熟を深めていく。

【平均正答率の差】

小岩小学校	60%
江戸川区(区立)	64%
東京都(公立)	68%
全国(公立)	63.4%
都との差	8ポイント